

## ペット関連品目の状況

以前、猫を飼っていたことがあります。癒やされる一方で、ペットフード、ペットトイレ用品など、色々と費用がかかっていた記憶があります。

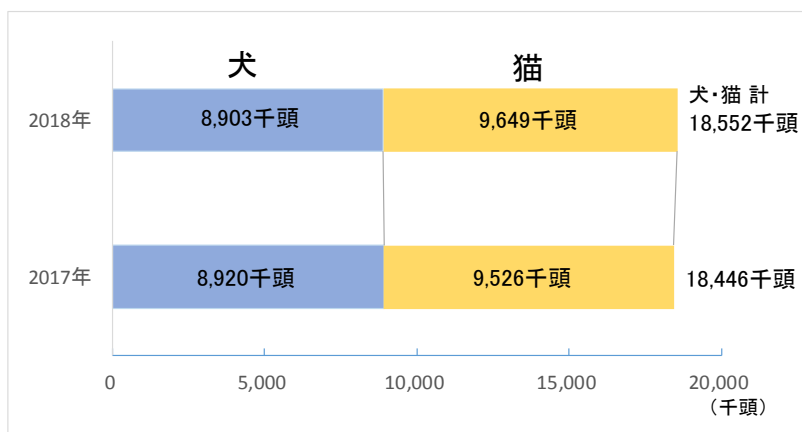
いまやペットは家族の一員として欠かせない存在となり、ペットフードやペット美容院代にもお金をかけるようになっていきます。家族の誰よりも美容院代が高額だと嘆く話も耳にしたことがあります。

そこで今回は、各種統計調査の結果からペット関連の品目の状況について見てみます。

### ペット飼育の状況

一般社団法人ペットフード協会の調査結果によると、犬・猫の推計飼育頭数は、2018年現在、犬が8,903千頭、猫が9,649千頭となっています。前年（犬8,920千頭、猫9,526千頭）に比べ犬は17千頭減少し、猫は123千頭増加しており、犬・猫の飼育頭数合計では前年に比べ106千頭増加しています。（図1）

図1 犬・猫 推計飼育頭数（全国）



出典：一般社団法人ペットフード協会「全国犬猫飼育実態調査」結果から作成

また、同調査結果によると、2018年現在のペットにかかる1か月当たりの支出総額（医療費等を含む）は、犬が11,480円、猫が7,521円となっており、前年（犬10,818円、猫7,475円）に比べそれぞれ増加しています。

### ペットショップの状況

総務省・経済産業省が実施している経済センサス - 活動調査の結果を見ると、2012年か

ら 2016 年にかけて、全国の小売業全体の事業所数は、1,033,358 事業所から 990,246 事業所（4.2%減）と減少しています。一方、ペット・ペット用品小売業の事業所数は、4,735 事業所から 5,041 事業所（6.5%増）となっており、小売業全体の事業所数は減少しているのに対し、ペット・ペット用品小売業の事業所数は増加しています。（表 1）

表 1 ペット・ペット用品小売業 事業所数の推移（全国）

	2012年 (平成24年)	2016年 (平成28年)	増加率 (%)
小売業事業所（全国）	1,033,358	990,246	-4.2
ペット・ペット用品小売業 事業所（全国）	4,735	5,041	6.5

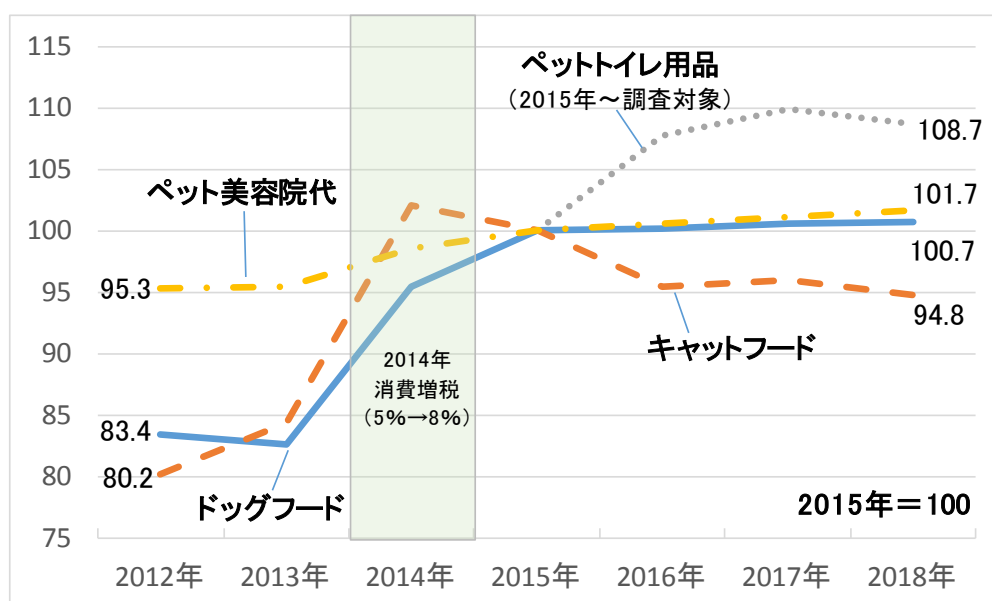
出典：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

### 消費者物価指数及び小売物価統計調査の結果から

総務省統計局が実施している小売物価統計調査では、ペット関連の品目としてドッグフード、キャットフード、ペット美容院代、ペットトイレ用品の4品目を対象とし、毎月価格を調査しています。

小売物価統計調査の結果から作成した消費者物価指数で見ると、どの品目も 2012 年から 2018 年にかけて上昇傾向で推移しており、上昇率は、ドッグフードが 20.7%、キャットフードが 18.2%、ペット美容院代が 6.7%となっています。また、2015 年から調査を開始したペットトイレ用品は、2018 年にかけて 8.7%上昇しています。（図 2）

図 2 ペット関連品目の消費者物価指数（2015年基準）の推移



出典：総務省統計局「消費者物価指数」

また、冒頭でも触れたペットの美容院代について、人間の理髪料及びカット代と比較すると、2018年の小売物価統計調査（東京都区部）における平均価格は、ペット美容院代が7,248円となっており、カット代の3,804円、理髪料の3,812円に比べ、ペット美容院代の方が高額であり、その価格差は3,000円以上あることがわかります。（表2）

表2 理髪料、カット代とペット美容院代の比較（東京都区部）

	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)
ペット美容院代（犬、トイプードル）	7,160円	7,248円
理髪料（総合調髪、男性）	3,802円	3,812円
カット代（ヘアカット、女性）	3,828円	3,804円

出典：総務省統計局「小売物価統計調査」

以上のように、ペット関連市場は拡大傾向にあり、ペットにかかる費用も増加傾向であることがうかがえます。既に多くのペット関連新商品や新サービスが誕生していますが、今後もペット関連市場は変化していくかもしれません。今後のペット市場の動向や、ペット関連品目の価格動向に注目してみてもいいかもしれません。

（2019年3月29日掲載）